

岐阜市民病院
篠原 朋子

私は 2017 年 9 月に修士課程を修了しました。総合病院の中の精神科病棟に在職しながら、大学院に通えるよう病院や病棟スタッフに協力していただいたことに感謝しております。現在も同じ職場でスタッフとして勤務をしています。

もともとがん患者さんを見る中で、精神的に支えられたらと考え、専門看護師を目指しました。そのために精神科病棟を希望し、大学院に通学することにしました。大学院での授業では、プレゼンテーションに苦勞しましたが、働きながら勉強したことで、すぐに実践に役立てることができ、患者さんの変化を目の当たりにできたことで『勉強が楽しい』と感ずることができました。しかし、実習では自分と向き合わなくてはならず、今までの看護経験の中で、患者の生活しづらさを分からずに看護してきたのではないかと悔やむこともありました。そんな時、同期の大学院生や先輩方、先生方が支えてくださったことで、ここまでたどり着くことができました。多くの皆さんに支えてもらったことで、今の自分があり、感謝しかありません。

今後は患者さんの可能性を信じつつ、患者さんが自己実現していけるようにスタッフと考えながら、共に歩んでいきたいと思っています。